三池の仲間頑張れ

各地の仲間から激励

三池を激励する手紙・カンパは毎日つづいているが、その仲間たちも苦しい闘いの中から激励を送つている。最近の手紙を二、三紹介した

全国の労働者は呼びかけている

三池労組同志の皆様お目出とうございます。

六一年度も山積した問題をたいした消化もできず多難な年でした。私たちの労働組合も闘争終結五年を迎え、いまなお差別待遇や組織切りくずしと取組んでおります。いかに日経連、資本主義の一致した政策とはいえ全く馬鹿気た話です。

裁判問題も一つとして解決をみておりませんが、しかし四、〇〇〇名にたいする三〇〇の少数精鋭の同志は、右に資本家、左に新労を相手にガッチリとスクラムを組んで盤石の備えは微動もせず、社内外の問題や来るべき春闘へと忙がしく動いております。

送りました伝単にもありますように、差別がひどく配転につぐ配転または番方から帯日勤へと労働強化は重なるが、収入の面では大きな減というのが実態です。

一方、私たちの日々の血と汗の結晶は驚異的な増産となつて、多大な利益を資本家にもたらしているわけです。

それなのに彼らは近代的増設整備の生産増だと社内外に宣伝しております。このように私たち働く者の厚い善意にたいして一片の感謝もなく無視され、加えて増大する災害の危険に身をさらしながらもがんばつているしだいです。

また、一方国内の経済政策では池田さんは所得倍増論という無責任な放言をやり、大企業はチャンスとばかり増設や不動産を新設し、中小企業の力の弱い者は倒産寸前倒産と全くあきれた野放しの政策で、私たちこそ本当に首切りた、依願退職だと片隅へ追いやられてしまう未路です。そのあげくが一八〇度転換の金融引締めと、また弱い者や貧乏者は麦を食えという説です。

それやこれや思うに私たちは世の多くの矛盾や不合理のなかにおかれ、いくらかでも不合理をとりのぞき明るい社会を呼びもどすため日々抵抗をくり返していると思います。

私たちは明るい社会をつくるものは一体だれであるかをよく知り、その使命を担つていることを胆に銘じ、誇りと自信をもつてすすむことを願いたいと思います。

終わりにのぞみ決して孤独にならずせまい視野でものを見ず、広く見渡すことと思います。

全国の労働者はきょうも元気でがんばろうと呼びかけております。

同封の三万円は会費から送付しました。お受取り下さい。昼時間もないありさまです。取急ぎ失礼申します。

組合員、主婦会員のみなさん元気で今後もがんばろう。

一月十二日

北海道苫小牧市

王子製紙労組

三池と交流したい

拝啓　労働者の生活と権利を守るために敵の集中攻撃のなかで日夜奮闘されている貴労組にたいし、心から敬意を表します。

皆様方の闘いの様子は、偶大な三池大闘争のときに当支部から参加した代表の話や、その後送られてきますビラ、新聞などで知ることができます。

資本家とその代弁者の池田政府が資本主義体制のみずからの危機をのがれるために、合理化のしわよせを労働者に負わせ、すべての権力を動員した徹底的な弾圧のなかでおこなわれている皆さんの闘いは、私たちが想像する何倍、いや何十倍のものであろうかと思われます。

争議責任追及を口実にした三十一名の活動家の首切り、職場での差別、大量首切り計画……など私たちは胸の底から怒りのこみ上げるのをおぼえます。

この問題は決して炭鉱労働者だけのものではなく、すべての労働者にかけられた合理化攻撃であると理解しています。

私たちの職場でも「炭鉱労働者を守る会」が組織され、前進をつづけています。一人では弱い労働者も団結すれば何者もおそれぬ力を発揮できます。その時にこそ幸せになれるんだということを安保闘争、三池闘争そして政暴法とつづく闘いのなかで私たちは身をもつて確信しました。このことに確信をもつてささやかながら力を結集してゆきたいと考えています。

新らしい年、新らしい闘いがはじまり、私たちの職場も例外ではなく合理化のあらしはすでに吹き荒れています。コンベアーのスピードアップ、職制の強化、活動家の首切りと、ますます資本の攻撃は激しくなつています。

私たちはいまの攻撃が彼らが強いから起つてきたのではなく、むしろ世界的に弱まりつつある彼らの支配を維持するためのものであることを知つています。

私たちは決してそのことに恐れるものではありません。私たちは皆さんが先頭に立つて闘われた厚い教訓を生かし、さらに統一をひろめ、未来に確信をもつて職場で抵抗を組織したいと考えています。

私たちの支部から貴労組に行つたものはごく少数で、一度交流の意をふくめて五月の連休を利用して訪問しようと思つており、二、三名ほどが行く予定です。詳しい日程は後日連絡しますからそのときによろしくお願いします。

カンパ金（六、六〇〇円）を同封しましたのでお受取り下さい。

大阪府茨木市畑田一五〇

松下電器労組テレビ支部

年末募金でカンパ

年の瀬も目前に迫つてまいりましたが私たちの組合でも、例年通り十二月二十六日に工場内で年末助け合い募金をおこないましたのでまことに少い金額で失礼ではありますが（五、〇〇〇円）働く仲間の善意としてお受け取り下さい。来るべき新らしい年こそは、明るく住みよい社会を築き上げるべく

十二月二十八日

新潟県中頸城郡中郷村大字藤沢九五〇

合化労連日本曹達二本木工場労組

苦言

熊本県職安課（元三川支部）　川西重生

外では今日も雪が降つています。一、二〇〇名の離職者は、残つている五、八〇〇名の三池の仲間はどんな所で、どんなことを今、考えているだろうか。

吹きまくる粉雪の中で、緊就で働いている仲間、訓練所で再就職のため学んでいる仲間。大阪、東京、名古屋で歯をくいしばつて頑張つている仲間。差別待遇と労働強化のために苦労している仲間たちを私は瞬時も忘れたことはありません。

一、二〇〇名の仲間の名簿が私の机の上にあります。ひらくと、訓練所入所、就職、緊就とゴム印がある。医療保護、生活保護と赤インクで書いている所もあります。

私は、政治と行政と労働運動と「生活と権利」を考える。資本主義と社会主義を考えました。

×　×

離職者の一人ひとりは真剣に生活のことを考えているだろうけれど、私が「自分で起ち上ろうとする決意に欠けてはいないか」と思うときがあるのはなぜでしょう。

私には一部の人々に「組合が何とかしてくれるだろう。政府が何とかしてくれるだろう」との依頼心の強い人が、まだいるような気がしてなりません。

荒尾職訓の五期生の求職表をみたら、賃金欄に三五、〇〇〇円―三〇、〇〇〇円とほとんど書いてあります。今の社会の物価では、一家の主ともなれば、それ位いはいるけれど、いまの社会の中小の会社では、大阪・東京・名古屋でも二〇、〇〇〇円は無理でしょう。

職安の職員も、各会社についてまつたく無茶と思います。

「あなたの所では三池の離職者を何名やといなさい」といえません。

また訓練所の面接（求職）のとき、面接におもむいた職員に無茶なことをいう人もあると聞いています。

職安の人々も県庁の人々も、三池闘争のときは、総評さん下の組合員としてカンパをし、いまもカンパを払つているのに……。

芝居でもよいから、頼みますというような態度で、面接に来た人々の同情をひくようにしたらどうでしょうか。

ほんとうに、きょう、あすの生活を心配しているのだったら。

×　×

大牟田・荒尾に就職希望しても残念な話だが、これもない。荒尾はたしかにゼロだし、大牟田もほとんど労働力は飽和状態なのです。

長年住みなれた大牟田・荒尾を離れたくない気持はわかりますが荒尾の緊就のワクすら少ない現在どうするつもりなのだろうと思います。

人間離でも自分の思うようにはいかないものです。今日の生活のためには、譲るべきところは譲つていかないと、生活の根拠を失うようになると思うのですが。

もちろん、思想とか主義とか、闘いをやめよというのではありません。みなさんの「職を与えよ」「生活の保証をせよ」との要求は池田首相に、労働大臣に、中労委にして、上から一一下へ指示して下の者が、みなさんのため働けるようにすべきです。

×　×

自営業のみなさん。

みなさんのところへは、顔を出したこともありませんが、どんな具合ですか。毎日、帳簿の整理はしておかないと、後日税務署の調査で困りますよ。

×　×

集団農場のみなさん。

あらゆる困難を克服して頑張つて下さい。豚が太り、稲の穂がたれみかん、ぶどうがみのつている光景を想像するだけで、私はうれしくなります。

がんばつて、がんばつて、がんばりぬいてください。

×　×

私は思うがまま書きました。

みなさん、くれぐれもからだに注意して、毎日毎日をたたかつてください。

首切り状をもらつた日の口惜しさと、第二組合の裏切り行為に対するいきどおりを思い出して、人間の最善の努力をつくしましょう。

どうか、こんなことを書いた私を怒らないでーー。今後も皆さんと共に一生懸命、しあわせな社会をつくるために働きますから。（三七、一、二六）

多摩川病院の仲間たち（左端が石塚さん）

東京から三池へ

念願かない石塚敦子さん来組

東京の多摩川病院の石塚敦子さんという方が十七日三池にはるばるやつてこられ、十八日組合本部を訪れ寄せ書きとカンパ四、四五〇円を差し出された。

この石塚さんは多摩川病院の看護婦として同病院に働いておられるが、過去に病院側から首切りの通告をうけ、あまりに理不尽な経営者の態度に我慢ができず、たつた一人で苦闘をつづけ、この首切りを撤回させたという人である。その闘いの中で、ちょうど激しい闘いをつづけている三池のことを知り、いらい絶望の中から光明を見出したように心の底から勇気がわき強くたくましく歩いていると語つていた。

写真は石塚さん

三池闘争のことは新聞やラジオなどで知るほか、逆オルグとして多摩川地区へ来た三池のオルグから話を聞いたり、三池の機関紙に載つた石塚さんの手紙をきつかけに三池の組合員と文通を重ねるなどとくに三池に深い関心を寄せていたということである。

いまでは、昨年政転闘争の上京団として東京へ行つた三池のオルグと交流したり、三川支部組合員から寄せ書きを貰つたりして連帯をいよいよ深め、三池の離職者が東京で不知火会をつくつているが、この仲間たちも日曜日などには石塚さんの家へ遊びに行くなど、野菜の世話から雑用まで馴れない東京での生活に石塚さんから親身もおよばぬ世話をうけているほどである。

「一度三池へぜひ行きたい」と昨年から考えていたが、おさえ切れなくて昨年の休暇を三池へ行くためにためて、やつと三池ゆきが実現したということで費用も自弁でやつてこられた。

石塚さんが三池へゆくと聞いて病院の仲間や、地域のお母さんたちがカンパや寄せ書きを贈つてくれたそうで、文通をつづけていた三川支部の松野さん（原万田）宅に泊り、松野さんの案内で各支部や緑ガ丘の主婦たちと交流などつづけ、二十二日に離山された。

石塚さんは本部に来てつぎのように語つていた。

私が三池へ激励になどそれはあべこべです。私たちのいる小さい組合、つぶされればすぐにでもつぶれるような組合に三池の闘争は大きな勇気を与えてくれました。三池へきてやはりよかつたと思います。帰つたら地域のお母さんや地区労の人たちが首を長くして待つていますのでよく三池のことを勉強して伝えたいと思つています。

三池のたたかいの発展のために

総評第二次オルグ団

過日来山した総評、九炭労オルグ団にひきつづき、第二次の福岡県評オルグ団が二十二日来山した。

オルグ団はただちに各支部に分かれ地域に入つて懇談会をひらき、オルグ活動をつづけたが、二十五日つぎのような声明を発表して離山した。

総評九州拠点第二次オルグ団として、福岡県各単産で編成した私たちは一月二十二日より四日間、合理化と首切りの嵐が吹きすさぶ文字通りの失業の谷間筑豊地帯と弾圧と差別、さらに不当な組織介入の中で日本の労働運動を守るため闘いつづける三池労働者・主婦の皆さんとの交流を深めました。

その中からいま、炭鉱労働者への攻撃はアメリカとの軍事的、経済的結びつきを強めるいわゆる保守体制強化の一環としてなされていることを痛感いたしました。

すでに筑豊地帯の地方自治体は大量失業による生活保護者層の著しい増加、購買力の低下からくる商工業の衰退等々地方自治体の機能がまさに破たんの寸前にあります。

一方、三池労働者に対して政府が行なつた一、二〇〇名の救済措置は何一つとして実施せず、逆に政府は三井独占とその手先どもを使い、三池炭鉱労働組合のまつ殺をはかつています。これが日米安保条約の炭鉱版です。

しかし、いま日本労働者階級は大幅賃上げ・最賃制の確立・合理化反対・政策転換・労働基本権の確立・独占物価値上げ反対などを中心に大きく立上りはじめました。

私たちオルグ団は三池の仲間と炭鉱離職者の皆さんと直接語りあつたなかから幾多の教訓を学びとりました。

そして炭鉱労働者への合理化攻撃は全労働者にかけられている攻撃と同一であり、あらゆる職場や居住で自らの要求と闘いをおこし炭労の闘いをつつむ共闘体制の確立こそ最も緊急な当面のわれわれの任務であることに意見の一致を見ました。

私たちは三池の闘いを全国の仲間に広げるために、交流をさらに強化しあらゆる方法、あらゆる職場で地域で共闘体制を強化するために努力します。

炭鉱労働者の皆さん。

三池の仲間と家族の皆さん。

総評の主柱として日本の労働者階級の先頭に立つて、今日まで闘つてきた炭労の闘いを高く評価し三池闘争の中で勝ちとつた労働者の偉大な連帯性と戦闘性をさらに前進させ発展させなければなりません。

私たちオルグ団はこの四日間を通じて得た知識と教訓を生かし、三池の闘い、炭労の闘いをつつむ体制の確立と全労働者階級の闘いに拡大するため全力をあげて闘うことを誓います。

一九六二・一・二五

総評九州拠点第二次オルグ団福岡県班

〈時のことば〉

復活する賃金統制

日経連は昨秋の総会で、ほんらい労資間で決定されるべき賃金について、国家権力の介入を求めた。政府はこれにこたえて一月四日、専門家五人によつて構成する「賃金研究会」と労働省労政局に賃金部を設けると発表した。これにより今後政府は、その時期における〝適正〟な賃金額を発表し、民間会社はそれを右にならえして賃金を決定しようとしている。これは政府が勝手に春闘相場を作り出そうとするもので、第三者の人事院が賃金を決定するという公務員賃金方式が全産業に広げられることになる。また昭和十四年に施行された賃金統制令の現代版ともみられ、それが第二次大戦の前ぶれだつたことは、まだ記憶に新らしい